

『避難』

について考えよう

地震が発生した時、被害を最小限に抑えるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが大切です。そのためには、地震について関心を持ち、いざというときに落ち着いて行動できるよう、**日頃から家族と話し合っ**て、地震について正しい心構えを身につけておきましょう

地震発生

何もない大丈夫なら

- ①むやみに避難しない
- ②玄関に黄タオルをかけて無事を知らせる

わが身の危険が差し迫っていないときは

- ①近所の方の安否確認
- ②初期消火や避難誘導等の自主防災活動

指定避難所

避難所は地域の人々の安全確保と生活再建のための防災拠点です



一次避難場所など

大規模火災から身の安全を守る。火災の大きさや火災による熱から身を守る。

安全が確認できるまで待機し、その後、自宅に帰るか、指定避難所に移動する

東境防災マップで確認

普段から一次避難場所や指定避難場所の所在地を確認しておきましょう！



地震発生直後の行動

- ◎身の安全を守る
- ◎火の始末をする
 - ・ガスの元栓を閉める
 - ・主ブレーカーを切る
- ◎脱出口を確保する
- ◎慌てて外に出ない
- ◎底の厚いスリッパを履く



自宅や周辺家屋が倒壊 火災で自宅焼失

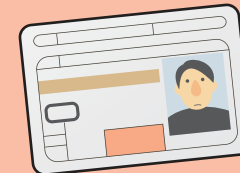


避難

周りの状況をしっかり確認して避難する

避難する時は

- ① 家族や近所の人と声を掛け合っ、防災組織などの集団で
- ② 健常者は必ず徒歩で
- ③ 近所に寝たきり高齢者や身体の不自由な方などがいる場合には、協力して一緒に避難
- ④ ヘルメットや頭巾をかぶり、長袖・長ズボン・手袋を着用し、非常持出品を携帯する
- ⑤ 身分証明カード（氏名・住所・血液型、連絡先等を明記したもの）などを所持する



避難する必要がある時とは

- ① 近所から出火して火災が広がる危険がある時や、初期消火活動の限界を感じた時
- ② 建物が崩壊したり、倒壊の恐れがある時
- ③ 市、警察署、消防署等の避難勧告・指示が出た時

